

子どもたちはさまざまな体験を通して、心を耕しているのです！ 将来、大きな樹が育つように！
国際理解は頭で理解するものではありません！ 国際交流体験で学ぶものです！

■ ■ ■ 身近なところで国際交流！ ■ ■ ■



先日紹介しましたマリア校交流だけが、国際交流ではありません。身近な場所で、身近な遊び（日本のけん玉）を、身近な人（従業員さんたち）と一緒にするのも国際交流です。これなら、すぐに、いつでも、何度でもできます。とても大切な取組です。

■ ■ ■ また会いましょう！それまでさようなら！ ■ ■ ■

いつも体験入学に来てくれていたお友達が、ベネズエラを去ることになりました。11月30日（水）にお別れ会を開きました。私たちは地球のどこにいても心でつながっています。また、絶対に会いましょう。それまで、さようなら。ありがとう、元気で！



■ ■ ■ 次のクラブ活動は囲碁クラブです。囲碁クラブでも国際交流しています！ ■ ■ ■

クラブ活動の4つ目は、囲碁クラブです。12月5日（月）にその第1回目を行いました。講師はみんなの知っているローリー先生です。先生は、スペイン語と日本語でとてもいねいに、楽しく教えてくださいました。友だちと囲碁ができて、ローリー先生にも会えて、なんかいっぱい得した気分になりました。

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…（その141）

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 36

中野俊子先生は、補習校の担任を3年間された後、全日制の先生になられました。全日制開校（1975年）以前の補習校時代の話は余り残っていません。大変貴重な記録です。今回も1972年から1974年の話です。

■カラカス日本語補習校の歴史…（中野俊子）■ 私は2年間、中学の下級の担当だったが、この学級の年齢だと当時では殆ど全員がいずれ帰国する生徒だったため、「国語」の学習に重点を置く企業駐在員の子が多かったため、週1度の日本語学級で友人と日本語ではしゃいでいる生徒のペースに巻き込まれないよう授業を続けることにエネルギーを必要としたものだ。3年目は初級、つまり日本語の読み書きゼロを前提とした学級を担当、日本語がほんの片言という生徒もいたが、生徒の背景はまちまちでも10人ほどの学級が一応、白紙の状態から出発したため、足並みが比較的揃って進んだのは幸いだった。私が関わっていた間、行事として特記できるものはなかったが、一度、1974年にカリサルのYMCAのキャンプ場で運動会が行われた。講師の音響メーカーの方が電線を引き、多数の参加を得て盛り上がった1日であった。また、例年6月、プリメラ・コムニオンの時期には間借りしていたシヨントル校の事情で補習校は休校になるのだが、一度その時、パルケ・デル・エステに遠足したことがある。

1972年頃まではPTAの方達が教室の後片付けなどをして下さっていた。土曜日だけ間借りしているシヨントル校の月曜からの授業に備えて、黒板を水拭きしたところ、乾拭きでないと困ると注意されたり、教室内の展示物の乱れを指摘されたこともあった。PTAには、地下の体育室の隅に置かせていただいていた日本側の補助金や、在住の方々の寄付で揃った図書も貸し出しもお手伝いしていただいた。つづく